洋上アルプス

No.326　2022年5月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL 0997-42-0331　FAX 0997-42-0333

着任のあいさつ

4月1日付けで屋久島森林生態系保全センターへ赴任しました山部裕一です。

屋久島には、約30年前に職場の同僚と旅行で訪れたことがありますが、屋久島の魅力は、洋上から突き出した緑深い山々、青く輝く海、そして屋久島で暮らす人々が伝えてきた歴史だと思います。

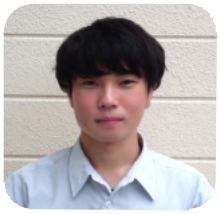
先日、白谷雲水峡から太鼓岩まで森林パトロールに行ったところ、この日はあいにくの雨でしたが大勢の登山者が入山しており、晴れていれば太鼓岩から見る大パノラマは素晴らしく、特に宮之浦岳をはじめとする山々の景色の中に咲く山桜の姿はとても美しく、街中で咲く桜とは違った景色を見せてくれていたでしょう。このような大切な世界自然遺産を適切に保全することが我々の使命だと思ったところです。

屋久島森林生態系保全センター
所長　山部　裕一

また、当センターの役割は、世界自然遺産地域をはじめとする森林生態系保護地域の貴重な森林生態系の適切な保全と利用を図るため、各種モニタリング調査と保全対策、山岳部等の森林パトロール、森林環境教育、自然休養林の適切な利用等について各関係機関や地域の方々と連携して取り組むことが大切だと思います。

さらに、当センターが管轄する屋久島の国有林は、日本の国有林を代表するところであり、ここで仕事ができることに誇りと責任を持って職務に専念したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

当保全センター職員の紹介



一般職員
川畑　一歩

4月1日付で鹿児島森林管理署より異動で参りました川畑と申します。

出身は長崎県の諫早市というところで、自然豊かで水がきれい、さらに牡蠣や鰻がおいしいことで有名な素晴らしい地域です。屋久島に初上陸したときは地元に近い安心感を覚え、この地に住むことができることをとても嬉しく思っております。採用4年目で初めての場所、初めての異動、初めての仕事ということで不慣れな点等あり皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

行政専門員
古市　真二郎

令和4年3月で北薩森林管理署を最後に定年退職し、4月より当センターの行政専門員としてお世話になります古市真二郎と申します。

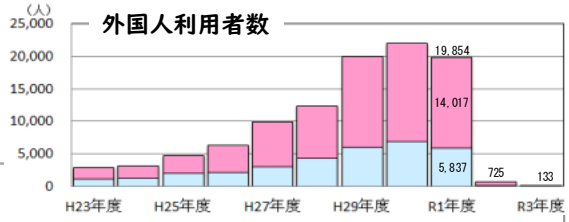
出身は隣の種子島（南種子町）です。毎週、フェリー太陽Ⅱで通勤し月曜日から水曜日の勤務となります。

3年前の屋久島での勤務経験も活かしながら、世界自然遺産の適切な保全・利用にかかわって参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

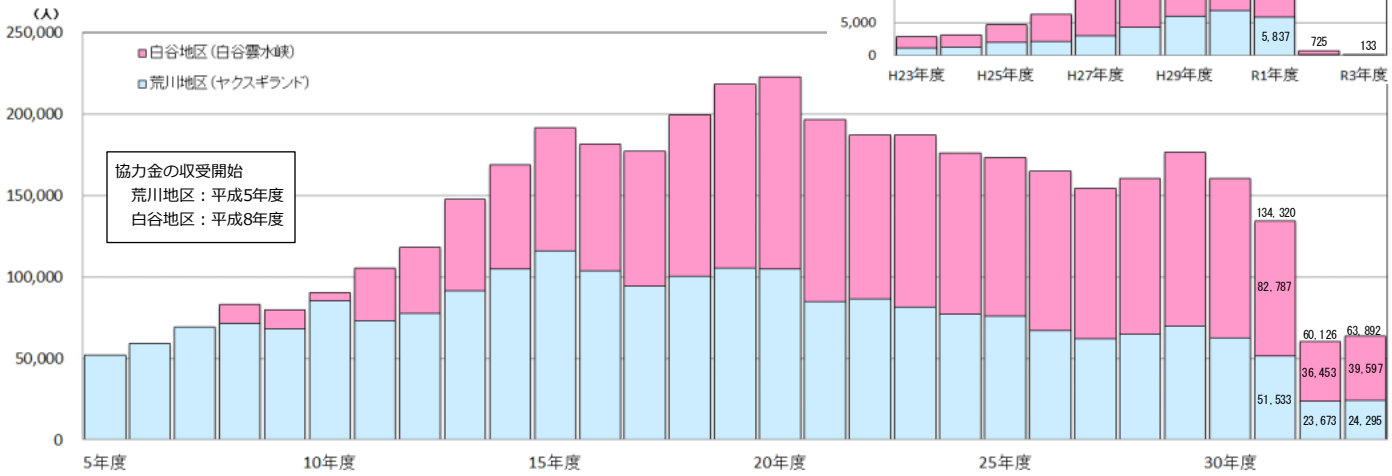
屋久島自然休養林 利用者 令和3年度

屋久島自然休養林の年度別利用者数及び令和3年度の月別利用者数の推移をグラフで表しました。令和3年度の利用者数は63,892人で令和2年度より3,766人増加しました。外国人利用者は令和2年度より592人減少となり133人となりました。

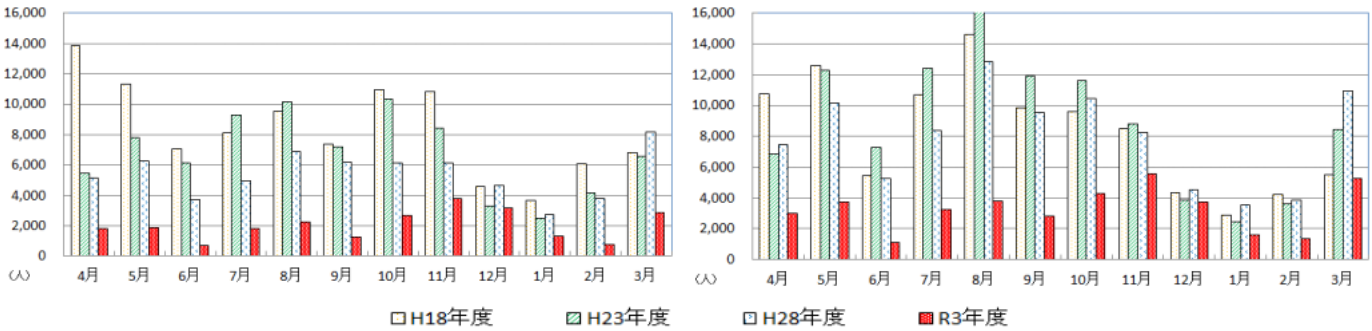
※データ提供：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会



屋久島自然休養林 利用者数の推移



月別利用者数 左：荒川地区（ヤクスギランド） 右：白谷地区（白谷雲水峡）



令和4年度 GSSの活動開始！！

林野庁は自然性の高い天然性林において入り込み者の増加や登山利用の集中化・大衆化等に伴い、人為による植生荒廃や森林機能の低下が見られることから、平成18年度より森林保護員（グリーンサポートスタッフ）による森林パトロールを実施しています。

これにより、貴重な価値ある自然を将来にわたって維持していくこととして、保護及びその周辺を含めた森林環境の適切な保全管理を推進しています。

具体的には、世界自然遺産地域を含む森林生態系保護地域等の森林パトロール及び軽微な歩道補修、植生や著名木等の衰退状況把握、登山者への安全・マナーに対する指導等を行っています。令和４年度も引き続き主要な登山コースを重点的にパトロールを行うこととしていますのでご協力をお願いします。なお、本年度より新たに須藤GSS（写真中央）が一員となりましたので報告します。

GSSの3名（左から小山、須藤、野々山）

屋久島里めぐり（第5回）
――― 一湊集落・本村集落 ―――

公益財団法人屋久島環境文化財団　畠　幸江

●一湊集落について

屋久島の北岸に位置する一湊集落は、世帯数約350で屋久島の中で６番目に大きな集落です。漁業が盛んで、特にゴマサバ（首折れサバ）が有名です。

夏になると浜には海水浴を楽しむ人たちがたくさん訪れます。港付近には屋久島随一のダイビングスポットがあり、その中には過去の大戦で沈んだ戦闘機が今では熱帯魚の棲家になっており、ダイバーたちを楽しませてくれます。公民館の前にある地図には、観光スポットを網羅する２～４時間の散歩コースが紹介されています。

島内の沿岸でよく見かけるえびす様は一湊集落では漁港の近くにあり、その昔、帰港した漁師は大漁に感謝して獲った魚を社にお供えをしていました。

７月に行われる「一湊浜まつり」は、華やかな色の船が海に繰り出すのが見せ場で、ツアー客も乗船できる滅多にないチャンスです。

一湊浜まつりの様子

●本村集落について

屋久島の北西約12kmに位置するひょうたん形をした島「口永良部島(くちのえらぶじま)」は、屋久島北西部の海岸から見える、噴煙を上げている島で、その形がちょうどムーミンが寝ている姿に見える『ムーミン島』と呼んでいる方もいらっしゃるようです。

本村集落は、口永良部島の玄関口であり、また学校、役場、商店などがある島の中心地となっています。

口永良部島は火山島であることから島内には良質な温泉がいくつもあり、本村集落には鉄分を多く含む本村温泉があります。

小中学校の校庭のワシントンヤシには、国指定の天然記念物「エラブオオコウモリ」がその実を食べにやってきます。エラブオオコウモリは、聴覚（エコロケーション）ではなく、視覚をたよりに空を飛びます。夜でも目が見えますが、ほんとうに真っ暗だと飛ぶことはできません。月や星の明るい夜や人家の明かりの近くが好きで、昼間に見かけることもあります。

エラブオオコウモリ

屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

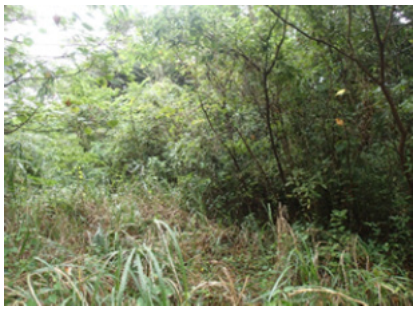
[標高0mプロット（海岸林）] 確認種数：74種（平成27年度調査：81種）

◆調査結果の概要　プロット内に出現するクロマツ4本はいずれも大径木であるが、このうち2本が松枯れ症状で枯死し、高木層を構成する樹種はイスノキ、クスノキ等の照葉樹を中心とした森林に遷移しつつある。このため林内は一層暗くなり、林縁を好むススキ、ヤブガラシ等の草本や、ウラジロフジウツギ、クサギ、タラノキ等の先駆性樹種が消失した。一方で、民家の庭園や果樹園由来と見られるナンテン、ミカン科の品種2種と、セイヨウウドといった逸出植物が侵入し、人里に近い環境特性が現れている。嗜好性の高いミカン科植物が健全で、シカの痕跡は確認されていない。

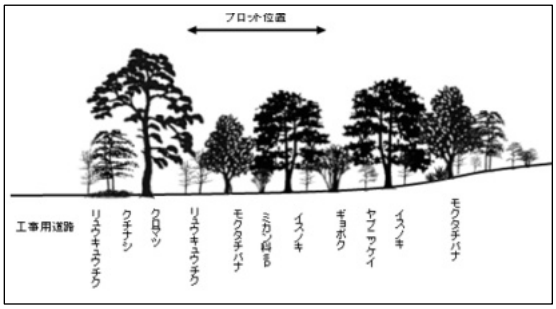
◆優占種の変化

階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層（8.0m以上）	クロマツ	クロマツ	クロマツ	イスノキ
亜高木層（4.0m～8.0m）	モクタチバナ	モクタチバナ	モクタチバナ	モクタチバナ
低木層（1.2m～4.0m）	リュウキュウチク	リュウキュウチク	リュウキュウチク	リュウキュウチク
草本層（1.2m未満）	テイカカズラ	テイカカズラ	テイカカズラ	リュウキュウチク

枯れたクロマツの樹冠
（左右から照葉樹の樹冠が迫っている）



マント群落の形成過程
（草本から亜高木にかけてつる植物が覆う）



標高0mプロットの群落横断図
※群落横断図の樹形図については「財団法人サンワみどり基金（1981）樹の本」から引用・改変

木に逢う日々（第4回）「アフリカでの植林」

当保全センター　ＧＳＳ　野々山 富雄

私は屋久島に来る前、アフリカに2年いました。チャドという国で砂漠化防止のプロジェクトに関わっていたのです。

アフリカで木を植えていたわけです。

現地では、当初、ユーカリを植えることが多かったのです。その木は成長も早く、真っすぐで木材としても使いやすかったのです。

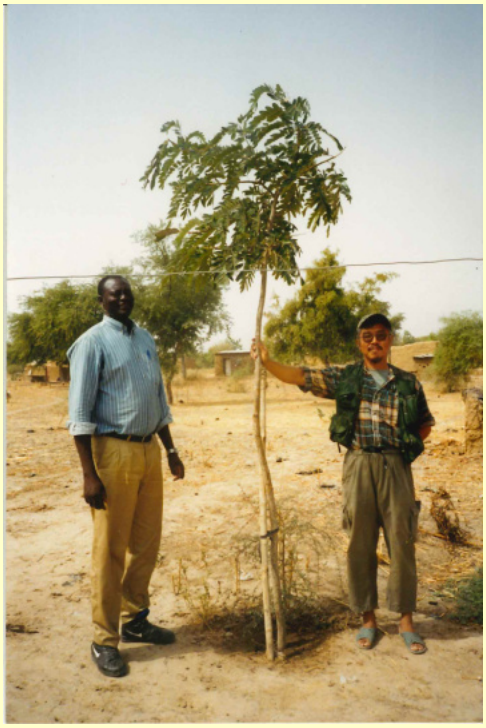
ところが成長が早いと言うことは地力をみんな奪ってしまいます。その植林地には下草も生えませんでした。だいたいユーカリはオセアニアの植物、外来種です。そこで極力現地でもともと自生していた乾燥に強い木、アカシア類などをよく植えました。

植えるのは、さほど難しいことではありません。しかし、それを育てることが難しい。そしてそれよりもっと難しいのは木を育てようという人を育てることです。

日本人が苗を植え育てれば、その木は大きくなるかもしれません。でも、それだけでは、砂漠化の進行は止められない。現地の人が自ら育林していかなければ、森は広がらないのです。

だが、アフリカの人達にとって木は神様の授かり物、放っておいても、勝手に生え茂っていくものだったのです。アフリカはもともと豊かな大地だったのですから。しかし、今、多くは人為的影響から、大地は疲弊し、気象は異常化しています。

むろん彼の地だけでなく、人類すべてが、意識改革を求められる時なのでしょう。



育ってきた木：アカシア